



地域にお金がまわる!

北九州市の取組み「住宅リフォーム助成」

省エネ改修、バリアフリー改修への助成で良好な住宅ストックを

上限内であれば、何度でも利用可能!

北九州市では2012年度から環境対策と高齢化対策および良好な住宅ストックを増やすことを目的に住宅リフォーム助成事業を行っています。助成対象者は市内に住宅を所有している人およびその親族で、持ち家でも賃貸でも可です。対象事業は省エネ改修とバ

アフリー化改修で、風呂やトイレの改修、内装や屋根・外壁などの改装と対象も広く、利用しやすい制度です。助成要件は受託事業者が市内の事業者、支店もしくは営業所となっています。1件の助成額の上限は30万円ですが、上限内であれば何度でも利用できるなど使い勝手がよく、福岡市が行っている企業立地交付金などに比べると格段の経済波及効果があります。助成事業費は1億9千万円ですが、受注事業は約33億円、経済波及効果は17倍です。



ジャンボタクシーが狭い場所へも入る おでかけ交通

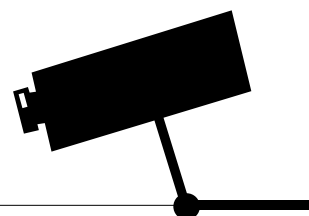


地域でつくる、地域の足

北九州市では交通空白地や高齢化地区を対象に、移動手段の確保として「おでかけ交通」に助成しています。地域住民が運行主体となり、主に9～13人乗りのジャンボタクシーを、市の仲介でタクシー会社と契約し運

行します。市は事業開始時の車両購入費などに上限460万円助成、赤字になっても運行努力に応じて一部を負担します。ジャンボタクシーなので狭い場所でも運行でき、また利用者が多くなくてもそれなりに採算が取れています。発祥の地、八幡東区枝光地区では、利用料金150円均一(小学生以上)、1ルート20分以内、停留場は約300メートル間隔で、1日5ルート全62便が運行しています。回数券を売るなどの地域努力もあり赤字は出ていません。タクシー会社も地域貢献として努力しており、社会的にも評価を受けています。枝光方式は福岡市でも大変参考になる事例です。

「防犯カメラ」は本当に 犯罪防止につながるか?!



プライバシーの侵害になりかねない設置カメラ

海外では禁止の方向に

いませんか? しかし、EUをはじめ世界ではプライバシーの侵害という人権問題の視点から、公共空間での撮影を禁止する方向にあります。世界的に「防犯カ

“犯罪防止”のために防犯カメラの設置は仕方がないと思っ

メラの設置が犯罪防止につながる」という報告はない、と日弁連は発表しています。しかし福岡市は、規制をしようとしないうころか、設置場所の把握すら十分にできていません。先進自治体では条例を制定し、設置および運用、撤去の報告、指導・勧告などできるようになっています。防犯カメラの設置は抑制すべきであり、防犯は街灯設置などほかの方法ですべきと考えます。